

11月21日(日)開催 (天神山校区)

番号	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
1	<p>小規模だから、コロナ禍に行事を全て出しました。 適正規模の案が出たのはコロナが広がる前だったのでは無いかと思うんですが…今は、席も離して授業を受ける時代なのに、あえて人数を増やす必要があるのか。 コミュニケーション能力は、立て割りで1～6年生、そして幼稚園も含め仲良くできる学校なので、中学校にいてもすぐくみんな仲良しです。小規模だからこそ、全員の顔と名前もわかり、人に対する思いやりが出来る人格作りが出来るき帳な場をうばわないで欲しい。 小・中学校では、学校生活の流れも違うし、体格も違う中で、どうやって学生生活をおくれるのかが不明です。 (中学生はテスト期間もあります) 小学生は静かにしとくんですか？</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症について、1校及び1学級当たりの児童生徒数の多寡と、感染リスクの関連性については明らかにされておりません。新型コロナウイルス感染症の感染対策については、学校の規模に関わらず、すべての学校において、3密回避の徹底をはじめ、国や府のガイドラインに基づき適切に対応しています。 なお、感染症対策において、一定の空間内での人の密度のあり方については、学校だけでなく、あらゆる施設や交通機関などに共通するものであり、必要であれば、国において統一的な基準が定められるべきものです。感染症対策の観点と小・中学校の適正規模・適正配置の取組を結び付けることは妥当ではないと考えます。 また、少人数で密を防ぐというコロナ禍での学校における緊急対応を、今後、平常時においても継続すべきかについては、教育の基本に関わることであり、国において一律に判断・決定すべきものと考えます。</p> <p>②「多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて豊かな人間関係を築き、社会性や協調性、コミュニケーション能力等を身につける」ことは、学校の「異年齢集団」の中であると、「同学年集団」の中であるとを問わず、必要なことと考えています。 また、同学年の集団規模については、クラス替えの可否の点に加えて、学習指導要領等に基づき、学年ごとに教育課程が編成されていることから、同学年においても一定の集団規模が必要であると考えています。</p> <p>③小中一貫校の整備にあたっては、先進事例を参考に、例えば、普段学習する普通教室は、小学生と中学生の動線を分けて配置する一方、施設一体型のメリットである異学年の交流については、校舎の中央部分に専用の交流スペースを設けるなど、小中一貫教育の実施に適した安全性の確保を図るとともに、児童生徒が快適に過ごすことができるようにします。</p>

11月21日(日)開催（天神山校区）

番号	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
	<p>①1.5kmの通学をほぼ全員が徒歩で通わなければならない小学生が他校にありますか あるそうですがほぼ全員が通っていますか（天神山小のような1.5km歩いて）</p> <p>②天神山小学校がなくなる（葛中に移る）ことで、ますます天神山校区から若い世代に転出する人が増加すると考えられるがどう考えるか</p> <p>③「広報きしわだ」では、適正化計画説明会としか書いておらず、岸和田市民のほとんどは何が行われようとしているか知らないのもっと具体的に例えば「葛城中学校の敷地に3つの小学校と葛中全てを統合した小中一貫校をつくる計画（案）」についての説明会をすると知らせてください</p> <p>また意見を広く寄せてくださいと広報してください（要望）。これは岸和田市全体の問題として考えていますか</p> <p>④今まだ使える小学校校舎を取りこわすのは市の税金のむだ遣いです（意見）</p> <p>⑤小規模校・大規模校のメリット、デメリットを具体的に挙げてください（要望）</p> <p>⑥小中一貫教育のメリット、デメリットを具体的に挙げてください（要望）</p> <p>⑦小中一貫校のメリット、デメリットを具体的に挙げてください（要望）</p> <p>（①～⑦）全て公開し、回答もしてください</p>	<p>①児童の大半が1.5kmの通学距離となる学校区は現在ありません。学校再編にあたり、一部の地域において通学距離が遠くなることは避けることはできず、保護者の皆様が不安に思われるお気持ちはよくわかります。このことについては、学校の小規模化の課題よりも今の学校数や通学距離を優先するのか、通学距離が遠くなったとしても学校小規模化の課題を解決し、教育環境、教育内容の充実を行うことを優先するのか、の選択の問題です。教育委員会としては、学校小規模化の課題解決が優先であると考えており、その上で負担が大きくなることについては、それが限度を超えた負担となっているのかを地域・保護者の皆様とご議論し、そうであればスクールバスの導入や通学路の安全確保など、必要な対策を講じるとの判断です。</p> <p>②本市人口の社会減を分析したところ、30代の子育て世代を中心に市外への転出がみられたと市長部局が分析しています。教育委員会としては、子育て世代の社会減を減らし、社会増へつなげていくためには、教育環境の充実が重要であると考えています。小規模化している学校をそのままにして、現在ある学校の数を維持するのではなく、適正規模・適正配置及び小中一貫教育の取組の推進により、より魅力ある学校づくりを進め、子どもたちにより良い教育環境、教育内容を提供していくことが、子育て世代の社会減を減らし、社会増につながるものと考えています。</p> <p>③適正規模・適正配置の取組は、対象となった学校だけでなく、広く市民全体にご理解いただくべき課題であることから、実施計画（案）の説明会を市内各所で計20回実施したものです。今後も市民の皆様にご丁寧な説明に努めるとともに、ご意見・ご質問の受付についても広く周知させていただきます。</p> <p>④仮に、閉校となった校舎の取扱いについては、地域・保護者の皆様のご意見も踏まえ、幅広い観点から、有効に活用される方策を検討します。</p> <p>⑤教育委員会が、教職員・保護者・児童生徒に対して行ったアンケート調査において、学校規模の違いによるメリット、デメリットについて多く出された意見は以下のとおりです。</p> <p>■ 6～11学級（小規模校）のメリット（良いところ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われている。 ○学校が一体となって活動しやすい。 ○運動場や体育館、特別教室、教材備品等余裕を持って利用できる。 ○色んな学年の児童生徒とふれあう機会が多い。

11月21日(日)開催(天神山校区)

番号	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
2		<ul style="list-style-type: none"> ■ 6～11学級(小規模校)のデメリット(課題があるところ) <ul style="list-style-type: none"> ○クラス替えができないので、人間関係が固定化している。 ○集団による競い合いや、切磋琢磨する機会が少ない。 ○校務分掌や、PTA活動等の負担が大きい。 ○中学校においては、部活動に制約があり、選択の幅が狭い。 ■ 19～24学級(大規模校)のメリット(良いところ) <ul style="list-style-type: none"> ○クラス替えによって人間関係がふくらみ、友達がたくさんできる。 ○学校全体に活気がある。 ○運動会や学習発表会等の学校行事が盛り上がる。 ■ 19～24学級(大規模校)のデメリット(課題があるところ) <ul style="list-style-type: none"> ○運動場や体育館が過密になり、活動に制限が生じやすい。 ○同学年でお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒のつながりが弱い。 ○何か問題があったときに、先生に気付かれにくい。 <p>⑥小中一貫教育のメリット・デメリットについては、以下のようなものが挙げられています。</p> <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校への進学に不安を感じる子どもが減少する。 ○いわゆる「中1ギャップ」が緩和される。 ○小・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まる。 ○小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まる。 ○小・中学校共通で実践する取組みが増える。 ○不登校の児童生徒が減少する。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校と中学校の組織文化や習慣の違いが大きく、調整する場合は時間がかかる。 ○小学生と中学生の交流が増えるほど、小学校高学年のリーダーシップや自主性が養われにくい場合がある。 ○小中合同の研修時間や、小中の教職員間での打合せ時間の確保が必要。 ○教職員の負担感・多忙感が増す。 ○施設分離型の場合は、児童生徒間の交流を図る際の移手段・移動時間の確保が必要。 <p>⑦小中一貫校のメリット・デメリットについては、上記のものも含めて、下記のようなものが挙げられます。</p> <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異年齢とのコミュニケーションの機会が増える。 ○上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まる。 ○小学生の中学生へのあこがれや中学生の小さい子への思いやりが育まれる。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じ施設内の学年数が増えることで、体育館や運動場等1つしかない施設を利用する場合に調整が必要。 ○学校の規模が大きくなり、管理職の目が届きにくくなる恐れがある。

11月21日(日)開催(天神山校区)

番号	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
3	<p>児童数の少ない小学校となりましたが、一人一人の児童をしっかり育てていくよい小学校(天神山小)となっています。少人数であることのメリットはとても大きいです。統合で人数が増えてもメリットはありません、また一昔のように学級崩壊が起こると思います。</p> <p>中学校(葛城中)でも10年ほど前、授業に参加しない生徒が増え、担任の先生が体調を崩されて次々と退職し、三年生の担任がすべて常勤講師の先生ばかりでした。安定した学校教育の確保こそが最優先にされるべきです。小中一貫校のメリットはありません。</p> <p>部活動の指導は外部の団体、指導者へという流れなので、統合のメリットにはなりません。</p> <p>今回の案には反対です。</p>	<p>小規模校のメリットも承知していますが、教育委員会としては、そのメリットよりも課題解決を優先とし、適正規模・適正配置の取組を進めていく必要があると考えます。</p> <p>また、小中一貫校を含む小中一貫教育については、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。文部科学省の調査では、H26年とH29年の調査ともに、導入済みの自治体のうち、95%を超える割合で大きな成果が認められる、または成果が認められるとの回答があり、教育的効果が期待できると考えています。一方、課題が認められるとする割合については、H26年の調査では77%であったものが、H29年では53%に減少しており、各自治体において課題を解消するための取組が構築されてきたものと考えます。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。</p> <p>問題行動に対しては、いずれの学校においても、児童・生徒に寄り添い、しっかりと指導してまいります。</p> <p>部活動については、外部の力を導入するにしても、教員が教育の一環として適切に指導していくことが必要です。</p>
4	<p>特認校とは何か</p> <p>一部のエリートを育てるためにつくるのか?まさに教育に差別を持たむ制度であると思われる</p>	<p>「特認校」とは、住んでいる校区に関わらず、市内全域から通うことができる学校のことです。</p> <p>特認校の特徴としては、それぞれの地域特性を活かし、特色ある教育を実施できることが挙げられます。例としては、自然を活かした体験学習や、英語・体育・ICTといった、分野に特化した教育、また地域住民や近隣大学といった、学校外の人々とのコラボレーション、少人数での教育の実施といった取組があります。</p> <p>特認校における具体的な取組内容については、地域・保護者の皆様のご意見をお聞きしながら、検討していきます。</p>
5	<p>小中一貫校は、ひずみがたくさんあります。よく考えて下さい。これで説明会を終わらず、地域住民が理解できるまで説明会を開いて下さい。必ず</p> <p>小中一貫校でないといけないのですか。隣接型、分離型なども考えてほしい。</p> <p>決定は、市長、教育長が決めるんですか議会ですと言っていますが議員の方々が小中一貫校のことを理解されているのか不安です。もっと住民の意見も聞いて下さい。</p>	<p>小中一貫校を含む小中一貫教育については、No.3の回答のとおりです。</p> <p>取組を進めるにあたっては、地域・保護者の皆様が不安に思われる点についても十分お伺いした上で、その解消に努めていきます。</p> <p>岸和田市小中一貫教育基本方針は市議会にご報告し、ご審議をいただいたところであり、引き続き、議員の皆様への十分な説明に努めていきます。</p>